



県初のプロeスポーツチーム設立 普及よりもまず理解

8月9日、県庁を訪問した新聞部は、近年、関心が高まっているeスポーツについて滋賀県知事とスポーツ課 主任 主事の平山翔太さんにお話を伺った。平山さん自身も毎日eスポーツを2〜3時間やっておられるそう。



色々なスポーツをこなす平山さん

eスポーツの具体的な活動時期は不明だが、5年ほど前から、大津市や湖南市などでeスポーツのデモが行われはじめて、現在にいたっているとのこと。県内では今年に入り、プロのeスポーツチーム「LAKE GAMING」が設立され、さらなる盛り上がりを見せている。2026年愛知アジア大会ではeスポーツが競技として採用された。

しかし、盛り上がりを見せる一方で問題視されているのは、やはり健康問題だ。名前にスポーツと表記はあるものの野球やサッカーのように健康に良いのか、見極めが重要になってくる。「eスポーツというものがどういうものなのか。どこがスポーツなのか。などを県民の皆様知ってもらう必要がある。普及よりもまず、どういう風にすれば理解が得られるかを考えることが大事。年代を問わず楽しめる。また、介護施設などでの活躍も期待されている。あとは、マナーをしっかり守ってやることです」と話す。まだまだ、課題が

夏休み中の活動（抜粋）

- 7月22日(土)〜25日(火)
ゲーミング合宿
- 7月29日(土)〜8月3日(木)
草津イオンにてボランティア
- 8月10日(木)〜12日(土)
強化合同合宿 サマーキャンプ2023
飛龍高校(静岡)・精華高校(大阪)
県立星林高校(和歌山)・八幡工業高校
- 8月20日(日)
夏祭り能登川サマーフェス★2023

滋賀県 三日月知事に聞く

先日、本校のeスポーツ部が知事を訪問した時のご感想を聞くと「eスポーツは可能性のあるものだと思う。それを先進的に部活動としてやってくれることは、とても良いことだ思う。二年後の滋賀県での国スポでも、eスポーツをもっと、皆さんに参加してもらえようようにしたい」

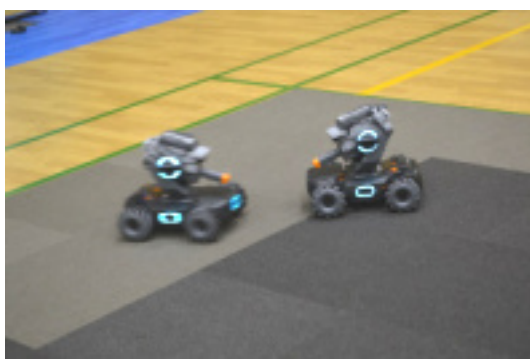
これからのeスポーツはどのように発展していくかと尋ねると「eスポーツは会場に行かなくてもできるし、世界とつながれる。これからも広げていきたい」と答えてくれた。



eスポーツを身近で体験 能登川サマーフェス★2023開催



↑ 会場の様子 東近江市能登川アリーナにて



↑ タブレットで操作する射撃ロボット



→ 記者(北)も体験



→ VRを利用したフィットネス



↑ 運転の感覚が味わえる

ふくおかしょうり 福岡奨鯉

TOMOIKI VENTURES 株式会社
LAKE GAMING 代表

学生時代はゴルフ部に所属。しよりさんは、プロゴルファーを目指すも体格の問題から苦戦し、部活動引退をきっかけにeスポーツを始める。現在はLAKE GAMINGスマブラ部門に所属しており、関西の上位プレイヤーとして活躍。また、小中規模の大会では優勝経験もあり、関西プレイヤーランキング11位にランクインの経験もある。チームの代表として運営と選手の兼任で活動中。



↑ 試合の合間に気軽に答えてくれたしよりさん

8月20日、東近江市にある能登川アリーナで「夏祭り能登川サマーフェス★2023」が開催された。このイベントは地元の小中学生を対象にeスポーツやプログラミングなどのデジタル体験してもらうというものだ。例えば、レゴブロックでロボットを組み立て音を鳴らすプログラムを作るものなどのほかeスポーツだけでなく、プログラミング学習なども行われていた。会場を訪れていた人に感想を聞くと「身近にないから気になって来た。また、あれば参加してみたい」「普段からゲームをしているのでとても楽しい」と話した。

会場のメインステージでは、ビワイチのコースを体験できるもののほか、プロの選手との大乱闘スマッシュブラザーズSPECIAL対戦があった。滋賀県初のプロeスポーツチーム「LAKE GAMING」所属の福岡奨鯉(しより)さんは「野球とかサッカーは体格が影響してくるが、eスポーツはそういったことがないのでどんな人でもできる。こういうイベントをやって、子供達に喜んでくれるのがやりがい」と自身の活動を話した。(藤)

(福岡さんについては左参照)



eスポーツ部に潜入

精力的に活動しているeスポーツ部。部員も70名を超える。平日のみならず、土日も休み返上で、eスポーツ紹介のボランティア活動をしている。この夏休みの活動の一部に潜入。紹介する。

8月の他校との合宿では、単にゲームをするだけでなく、メンタルコーチ、コーチング、ミーティング、スクリム（e-sportsのプロシーンやストリーマーとして活動するプレイヤーが行う練習試合）と盛りだくさん。参加者に取材した。

↓ ひたすらゲーム



↓ メンタルゲームをしているところ



eスポーツ部インタビュー

- Q1 eスポーツを始めた理由は？
Q2 eスポーツで人気なものはありますか？
Q3 仕事としてeスポーツをやっていききたいですか？
Q4 これからのeスポーツについてどう思いますか？

精華高校 2年 山縣 知輝（やまがた はるき）くん

- A1 特に趣味はなかった。部を探していたらeスポーツがあって入部した。
A2 VALORANTなどFPSゲーム。
A3 eスポーツは趣味程度としてやっていきたい。関係のある仕事に就きたいが、選手にはならない。
A4 オリンピック競技にもなったので、これから世界に広まるのではないかな？

八幡工業高校 3年

田淵 蒼馬（たぶち そうま）くん

- A1 最初の代でやらないといけないという使命感があって、eスポーツを続けられている。
A2 VALORANTが人気。
A3 考えていない。趣味として、部活として見ている。工業高校なので、安定した収入のある求人が色々ある。
A4 これからも沢山人数が増えていくと思う。社会風潮もあるし人気になるのではないかなと思う。

誠凛高校 2年 竹中 太利（たけなか たいり）くん

- A1 ゲームが好きでその延長線として。趣味の充実や仲間を見つける。
A2 FPSゲームの中で、VALORANTが人気。
A3 趣味の一環としてやっていきたい。
A4 はっきりしたことは言えないけど、市場が大きくなるかもしれない。

飛龍高校 3年 伊藤 龍之介（いとう りゅうのすけ）くん

- A1 小さい頃からゲームをやっていたのが要因の1つ。だからeスポーツ部のある学校に入った。
A2 Fortnite、League of legends、ロケットリーグ、などがある。しかし、あまり日本では知られていない。
A3 仕事としてやっていく気はないと思う。けれど、業界のサポート、裏方としてeスポーツを支えていきたい。

飛龍高校 2年 相川 友輝（あいかわ ともき）くん

- A1 単純にゲームが好きでプロに憧れた。プロの対戦を見ていてすごいと思った。
A2 VALORANTが人気だと思う。
A3 これからも夢を持ってeスポーツをやっていきたい。
A4 海外だとしっかりとしたスポーツとして認められているけれど、日本では、まだそこまで認められてはいない。染みついたら熱くなってくるのではないのでしょうか。

eスポーツ部

カワソエ ショウタ
川副 翔太くん(2-4)

- ① 71人/毎週平日と土・日曜日にはeスポーツ紹介のボランティア活動もしている。
② 全国大会出場
③ 活動は真剣。練習は、みんなでワイワイしながら。



【質問項目】
①部員数・活動状況
②目標
③雰囲気や特徴など
④暗黙のルール

部長紹介

飛龍高校（顧問） 池田 基樹先生

- A1 最初、学校側からやらないかと言われたときは、そこまで乗り気ではなかったのだが・・・
A2 ロケットリーグが学校で人気。全国3位をとった。
A3 スポーツが好きな人もいれば、音楽が好きな人、ゲームが好きな人など様々な人が共有出来て、素敵なコンテンツだと思う。
A4 世間に理解を広めて、eスポーツが素晴らしいものだということを広めていきたい。

八幡工業高校 顧問 三浦 広和先生

- A1 工業高校の人气が低くなっていた時期があり、高校を盛り上げるために学校の取り組みとして始まった。
A3 正直eスポーツ選手として仕事をするのは難しい。プレイ人口が多いので、プロになれる確率は低い。
A4 eスポーツはこれから成熟させていくフェーズに入った。eスポーツは文化としては、まだ浅い場所の位置にある。大会などでもっと定着していき、これからの社会に根付いていくことを期待したい。eスポーツの未来は明るい。ビジネスとして賞金のある大会もある。今は、プレイ人口の多いものだが、これからは見る人も多くなっていくだろう。

